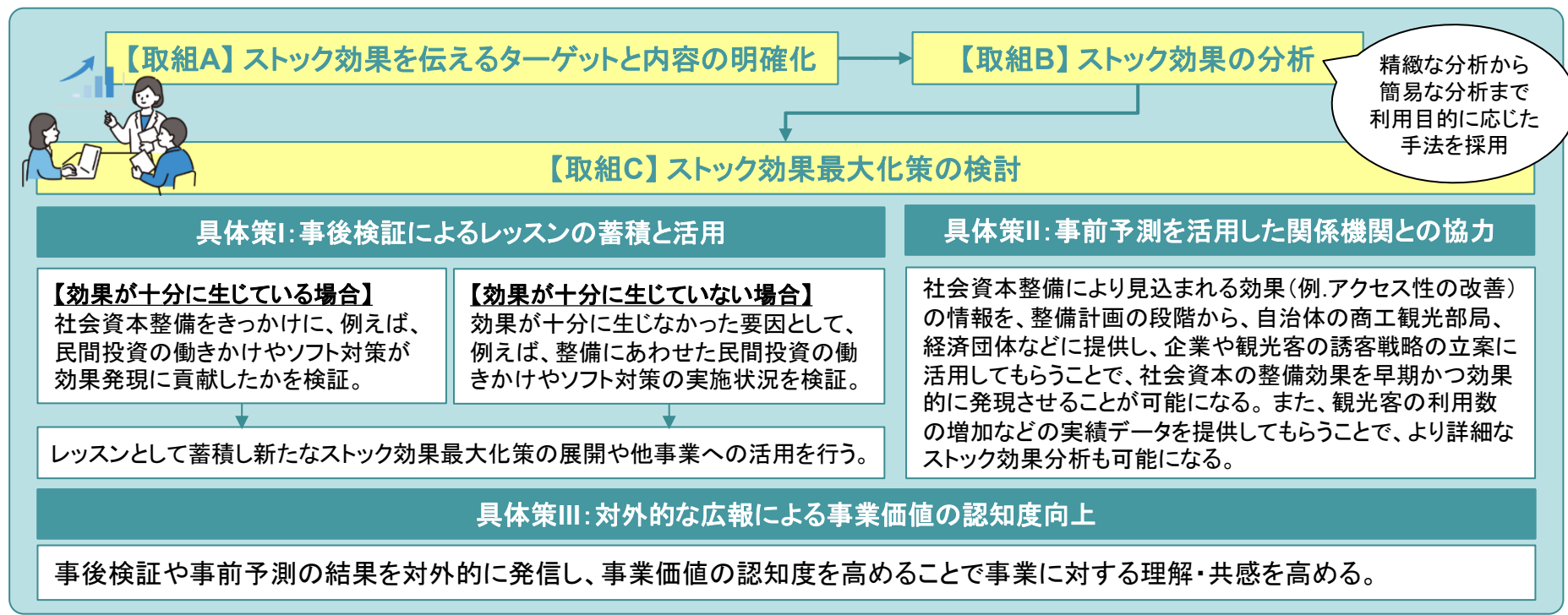


プラットフォームを通じた支援の概要

- 本プラットフォームでは、社会資本整備によるストック効果を最大限高めることを目的に、地方自治体および本省・地方整備局・運輸局の職員の以下のA~Cの3つの取組を充実化するために2つの支援メニューを展開する。特に、【取組C】のストック効果最大化策の検討を充実化する。
- 将来的には、地方自治体および本省・地方整備局・運輸局の職員同士の事例・ノウハウ(事後検証によるレッスンの蓄積や事前予測の活用の有効性等)の共有などの横展開も行う。



地方自治体および本省・地方整備局・運輸局の職員の取組A~Cを支援！

【支援メニュー】



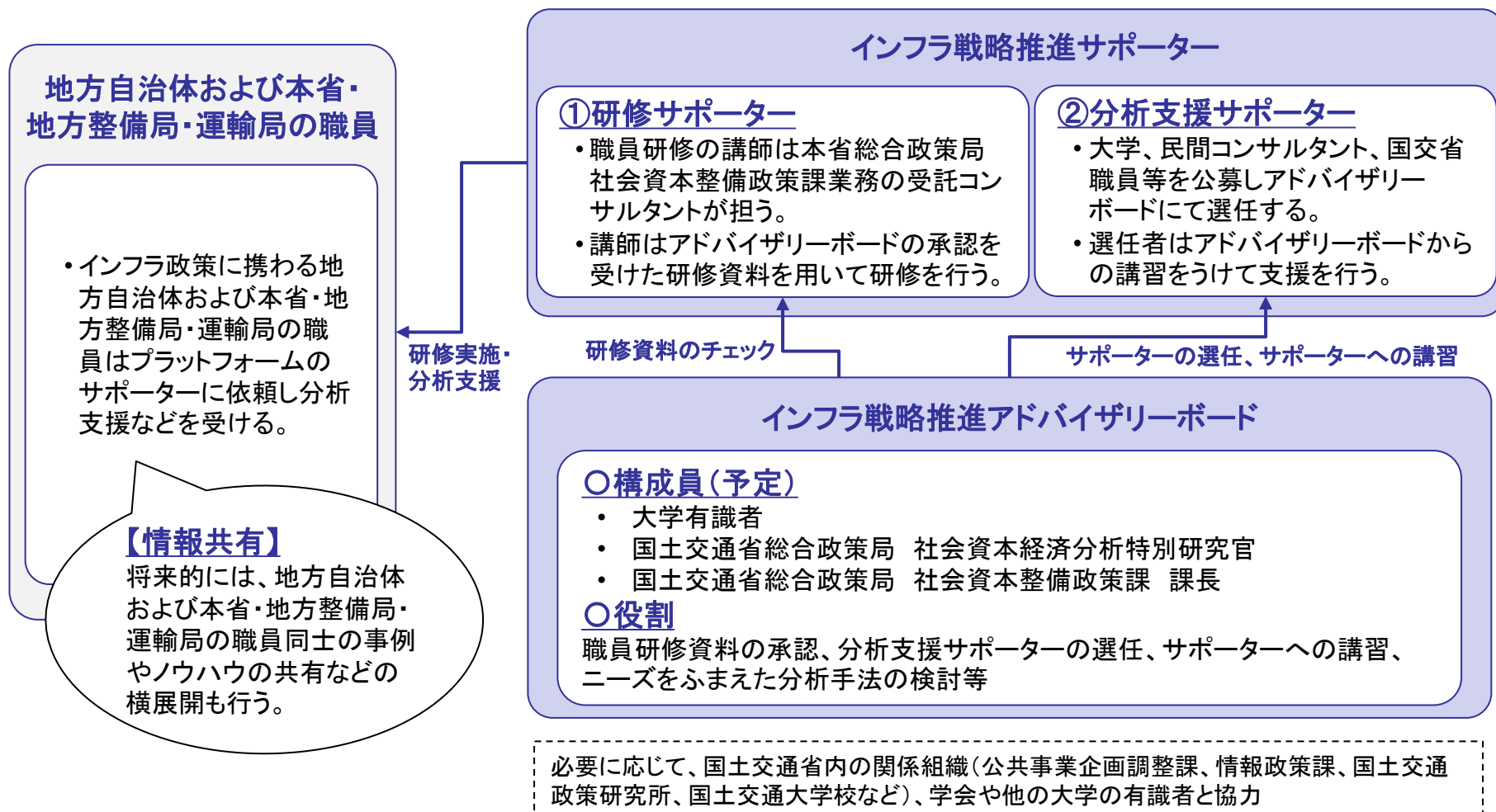
支援①: 職員研修
ストック効果の全体像をどのように把握し、どのように分析し考察すべきかなどについて対面・オンラインで実施。

支援②: 分析支援
個別事例のストック効果の分析方法や考察・解釈の仕方に関する技術的なアドバイスや分析に必要なデータの提供などを行う。

プラットフォームの構成員と関係性

- 本プラットフォームでは、支援を希望する地方自治体および本省・地方整備局・運輸局の職員に対して、インフラ戦略推進サポーターが研修および分析支援を行う。また、インフラ戦略推進アドバイザーボードにより、研修資料のチェックやサポーターへの講習などを行い、支援の品質維持・向上に取り組む。

産学官連携インフラ戦略推進プラットフォーム



支援①：職員研修

- 職員研修は、「①ストック効果を伝えるターゲットと伝え方を学ぶ」、「②ストック効果の分析手法を学ぶ」、「③ストック効果最大化策の検討方法を学ぶ」の3つのポイントに焦点をあてて行う。
- 研修講師は、本省業務の受託コンサルタントを基本とし、ニーズに応じて対面・オンラインで実施する。

【職員研修で伝える3つのポイント】

①：ストック効果を伝えるターゲットと伝え方を学ぶ

- 社会資本整備が社会経済活動へ与える幅広い効果の波及過程を具体的に可視化する際の考え方としてロジックモデル(右図)の作成方法を学ぶ。
- ロジックモデルで示した各効果の要素の受益者が誰であるか、各要素は定量的に計測可能か、もしくは定性的に把握可能かを明確にしたうえで、分析対象事業のストック効果の分析方針として、誰に対して、どの効果をどのように伝えるべきか(定量or定性)についての検討方法を学ぶ。

②：ストック効果の分析手法を学ぶ

【定量的な分析手法】 ストック効果の分析方法として、有無比較法(経済モデルを用いたシミュレーション)もしくは前後比較法(統計データ等に基づく統計分析)について、手法の特徴と利用方法(事前or事後等)を学ぶ。簡易な分析方法から高度な分析方法までニーズに応じて分析手法を示す。

【定性的な分析手法】 定量的に分析困難であるものの、定性的な効果発現が期待される場合のアンケートやヒアリング等を用いた分析方法、効果発現のメカニズム・筋道(ナラティブ)を明確にする際の考え方を示す。

③：ストック効果最大化策の検討方法を学ぶ

- 事後検証によるレッスンの蓄積と活用方法、事前予測を活用した関係機関との協力の方法、対外的な広報による事業価値の認知度向上に関して、具体事例・イメージを示しながら、ストック効果最大化策の検討方法を学ぶ。

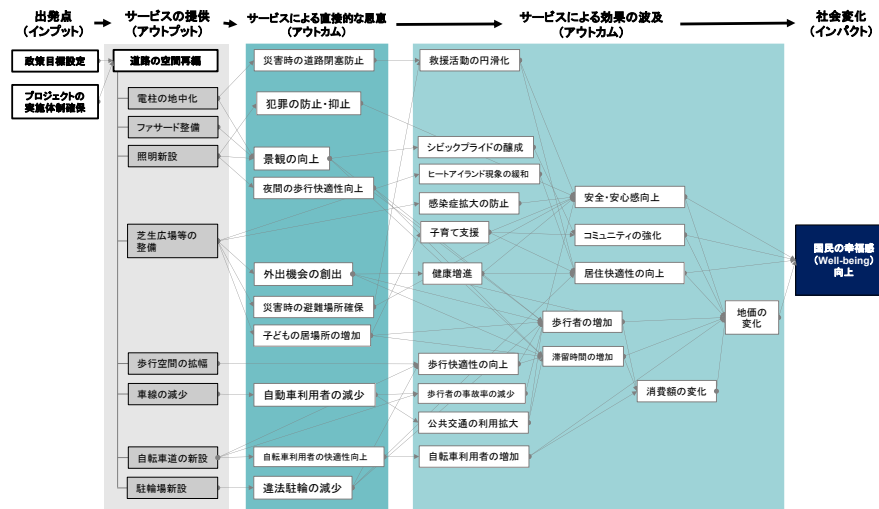


図 道路空間再編に関するロジックモデルの作成例

表 定量的な分析手法

分析手法	分析内容
有無比較法 (経済モデルを用いたシミュレーション)	ある時点で、インフラを整備した場合と整備しなかった場合を比較し、効果を示す。 ※事前予測、事後検証の両方で利用可能
前後比較法 (統計データ等に基づく統計分析)	社会資本整備前後での地域の変化を効果として示す。 ※事後検証で利用

支援②：分析支援

- 分析支援は、国・地方公共団体等が個別事例を対象にストック効果分析を行うための分析手法や分析結果の示し方・解釈の仕方(ストック効果最大化のためのレッスンの蓄積の仕方等)について技術的なアドバイスを行う。
- 分析支援サポーターは候補者を公募し、アドバイザリーボードの承認を受けて選任する。

【分析支援のイメージ】

①：個別事例に対する支援

- 国・地方公共団体等が個別事例を対象にストック効果分析を行うにあたり、**どのようなデータや分析手法が有効か、分析結果の示し方・解釈の仕方(ストック効果最大化のためのレッスンの蓄積の仕方等)はどのようにすべきかを技術的側面からアドバイス**するとともに、他地域の取組事例等を情報提供する。
- ただし、具体的な数値解析や資料作成等が必要な場合は、別途、支援を依頼する機関から業務発注等を行うものとし、本支援の枠組み内での対応は行わない。

②：分析に必要なデータの紹介・提供

- ニーズに応じて、ストック効果分析に必要なデータについて情報提供等を行う。
- 例えば、個票形式の統計データである「**マイクロデータ(調査票情報)**」を用いた**分析の有効性等**を紹介し、総務省が運営するマイクロデータのポータルサイト(miripo)等を利用してデータ入手(申請)の支援を行う。
- 国土交通省が保有するデータについては提供可能データを積極的に提供し活用頂く(右図は活用例)。

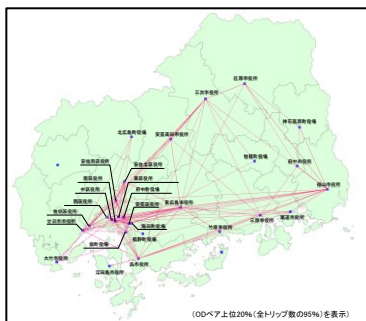


図 物流センサス(全国貨物純流動調査)による地域間の貨物流動の可視化例

【分析支援サポーターの選任から支援までの流れ※】

アドバイザリーボードによる分析支援サポーターの選任

- STEP①: 国土交通省社会資本整備政策課が分析支援サポーターにふさわしいと思われる**候補者の推薦を公募**。
- STEP②: 候補者が「**インフラ戦略推進サポーター要件**(例えば、ストック効果分析に関する論文査読実績、業務実績等)」に合致する者であるか否かを調査。
- STEP③: アドバイザリーボードにおいてサポーターを選任し、**各サポーターの専門分野・実績等を国土交通省ホームページで公開**。

分析支援サポーターによる支援

- STEP①: 国・地方公共団体等の組織は、国土交通省ホームページから、支援を依頼したい**サポーターを指名**。
- STEP②: 指名されたサポーターは、国・地方公共団体等の組織の**要請に応じて必要な支援を実施**。



※サポーターの選任方法等は今後見直しを行う可能性があります。